

(CAMPUS HEALTH 特別号)

公益社団法人全国大学保健管理協会

# 創立50周年記念特集号

平成26年



Japan University Health Association

(**CAMPUS HEALTH** 特別号)

公益社団法人全国大学保健管理協会

創立50周年記念特集号



# 目 次

会長挨拶	公益社団法人全国大学保健管理協会 会長 京都大学 総長	松 本 絃 ……	1
代表理事挨拶	公益社団法人全国大学保健管理協会 代表理事 京都大学環境安全保健機構健康科学センター長	川 村 孝 ……	2
全国大学保健管理研究集会第50回記念大会を開催して……………	神戸大学	馬 場 久 光 ……	3

## 創立50周年の歴史と今後の展望

<名誉会員> ※名誉会員就任順

保健管理センター時代を想う……………	大根田 昭 ……	7
協会創立50周年を祝して……………	戸 田 安 士 ……	10
保健管理センターと宮田先生の思い出など……………	大河内 寿 一 ……	14
大学生と健康第一版「編集」を顧みて……………	井 上 修 一 ……	17
西島安則先生のこと……………	森 下 玲 児 ……	19
宮城教育大学保健管理センターの思い出……………	松 山 恒 明 ……	21
臨床経験・要望・提言……………	渡 辺 久 雄 ……	24
はるか昔の話ですが……………	山 本 公 弘 ……	27
大学における保健管理センターの果たす役割：		
保健管理センター教員生活33年5ヶ月を振り返って……………	佐 藤 祐 造 ……	29
私だけにとっての宝物……………	高 橋 俊 彦 ……	32
運動習慣のすすめ……………	石 井 伸 子 ……	35
保健管理センターの運営に携わって得た喜び……………	上 田 尚 彦 ……	38
琉球大学保健管理センター停年・退職、そして沖縄産業保健推進センター勤務へ	高 良 宏 明 ……	41
京都工芸繊維大学保健管理センターの思い出……………	長 岡 研 五 ……	43
紅白歌合戦とメンタルヘルス……………	佐々木 大 輔 ……	45
全国大学保健管理研究集会の思い出……………	近 藤 孝 晴 ……	47
在職20年を振り返って……………	戸 部 和 夫 ……	48
“ホケカン”から“ラッコリン”へ～50年目の節目を迎えて……………	中 村 道 彦 ……	53
若者のメンタルヘルス;「志」を実現する力と“Hokekan”モデルの世界への発信	影 山 任 佐 ……	55
大学保健管理1年目の思い出、そして今……………	長 尾 啓 一 ……	58
素晴らしい仲間たちとの和歌山大学での30年……………	宮 西 照 夫 ……	62
感染管理と正しい感染予防……………	岡 田 純 ……	65
大学の国際競争時代において全国大学保健管理協会、保健管理センターが貢献できること	齊 藤 郁 夫 ……	68

<現 役> ※地方部会順

地方部会から見た半世紀	佐々木 春 喜	70
50年の歴史の中の3割ほどですが	立 身 政 信	72
大学法人化前後の施設協議会の思い出	苗 村 育 郎	76
大学の保健管理に関わる組織と法的整備の変遷および今後の課題	鈴 木 芳 樹	80
情熱の継続と変化を恐れない前進を		
- 「バベルの塔」から協会設立50周年に思うこと -	米 山 啓一郎	82
「創立50周年」を祝して	押 田 芳 治	84
創立50周年に寄せて-世界中に我々の仲間はある-	山 本 眞由美	85
全国大学保健管理協会-学生教職員、そして健康管理を担うスタッフのために-	久保田 稔	88
国立大学法人化以降の国立大学保健管理施設業務の変遷を振り返って	守 山 敏 樹	91
学内外の変化の中での保健管理施設	岸 川 秀 樹	93
保健管理センターに赴任して思うこと	宮 田 正 和	95

**地方部会の現状と将来**

北海道地方部会	97
東北地方部会	102
関東甲信越地方部会	105
東海北陸地方部会	108
近畿地方部会	110
中国四国地方部会	113
九州地方部会	116

**協会資料**

歴代会長・副会長一覧	119
協会の歩み	120
記念特集、記念誌等一覧	121
全国大学保健管理研究集会開催一覧	122
全国大学保健管理研究集会共通テーマ一覧	124
全国大学保健管理研究集会講演一覧	125
全国大学保健管理研究集会 シンポジウム・分科会・ワークショップ等一覧	129
地方部会研究集会開催一覧	147
地方部会研究集会 講演・分科会・シンポジウムパネルディスカッション等一覧	151

定 款	189
理事・幹事・評議員名簿	193
編集後記	195

# 学生の健康基盤を支えた半世紀

松 本 紘

公益社団法人全国大学保健管理協会 会長  
京都大学総長

全国大学保健管理協会が50周年を迎えました。この節目にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

教育基本法の第一条に「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」とあり、学校における健康確保は教育のもっとも基本的な課題と位置づけられています。大学の保健管理施設は学校保健安全法で規定された「学校医」と「保健室」の役割を担うものと広く認識されており、全国の大学に医師その他の医療職が配置されています。とはいえ、いずれも小組織ゆえに全国レベルでの連携が必要との考えから、1963年に第1回全国大学保健管理研究集会が開かれ、1964年に社団法人全国大学保健管理協会が発足しました。

創立25周年の記念特集号などを手がかりにこの50年を振り返ると、学生の成人病が生活習慣との関連で議論されたり、student apathyという言葉に代表される学生のメンタルヘルス問題への取り組みがなされたり、今も昔も変わらない課題があります。一方で時代を映すものとして、公害問題のために環境衛生分科会が設置されたり、若者の病気の代表であった結核は大幅に減少したため胸部X線の意義が問い直されたりしたこともありました。

どの課題をとっても疾病の発症防止と早期発見・早期対応、すなわち予防医学の言葉で言えば一次予防と二次予防に重点が置かれています。そのため、大学保健管理領域の学問は「〇〇病学」ではなく「健康学」あるいは「健康科学」と言われてきました。疾病の予防、健康の増進は健常者に対して行うものであり、学校医等による種々の機会・方法による啓発活動はとても大きな意義があります。その意味では健康管理は教育の一環であり、多くの大学の保健管理施設に教員が配置されている所以でもあります。

50年前の大学・短期大学進学率は20%に満たない状態でしたが、現在は50%を超えており、大学が特別なコミュニティではなくなってきました。全国大学保健管理協会は公益社団法人化するとともに高等専門学校にも門戸を開き、高等教育機関の健康管理を広く国民の中で捉えていく姿勢を打ち出しました。

これからも全国の大学保健管理施設における活動とその連携、そして学術面からの裏付けをさらに発展させていただくよう心より願っています。

## 挨拶

川 村 孝

公益社団法人全国大学保健管理協会 代表理事  
京都大学環境安全保健機構健康科学センター長

大学進学者が半数を超える時代になり、大学というコミュニティにおける健康管理は、小中高の健康管理や企業等における健康管理と同様の重要性を持つようになりましたが、最初から大学保健管理を目指して保健管理センターに着任した医師や看護師・保健師は稀であると思われる。何かの縁で大学保健管理センターに配属され、無我夢中でやっているうちに大学保健管理に意義と愛着を感じるようになっていたという方が大部分ではないでしょうか。

各大学の保健管理施設は小規模で一人で幅広い領域をカバーする必要がありますので、全国レベルのネットワークはとても重要になります。それだけに保健管理業務に従事するスタッフの仲間意識は強く、全国大学保健管理協会が開催する研究集会での情報交換も熱心です。

大学での健康管理は大学病院や市中病院での医療とは異なり、法令によって業務が規定される面が大きく、症状のない人に積極的に接触し、予防に重点を置く、といった特質があります。また、大学も一事業所であることから、学校保健のほかに産業保健も同時に行う必要があります。労働安全衛生法の改正や国公立大学の法人化によって産業保健の比重が高まっている感があります。

このような状況にあって、温故知新、すなわち過去の経緯や積み上げてきた知恵を知って今後の業務の改善を考えることはとても大切です。全国大学保健管理協会は50周年を迎え、その経験の蓄積は大きなものになっています。ここにその50年を辿り、次の半世紀の礎としたいと思います。